

平成25年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【研修レポート】

- 1 実施地区 : 後志地区
- 2 研修者氏名(学校名): 山本康博(寿都町立潮路小学校)
- 3 研修実施日: 平成25年10月3日(木)~平成25年10月4日(金)
- 4 研修先 : 東北地区へき地教育研究大会山形大会
(授業公開校 山形県尾花沢市立上柳小学校)
- 5 研修目的 : 複式学級を有する学校の特性を生かした学習指導の深化・充実
- 6 キーワード: 間接学習、ひとり学び、とも学び、両間接学習

1 尾花沢市立上柳小学校の概要

「ひとり学び」

- (1) 児童(学級数) 19(3学級)
- (2) 教職員 校長1、教頭1、教諭2、講師1、
養護助教諭1、主事1、業務員1
- (3) へき地 1級
- (4) 地域の特徴

下柳・上柳・銀山の3つの地区で構成された120戸ほどの地域で、寒暖差を生かしたスイカ栽培が盛んです。また県内屈指の豪雪地帯で、3メートルを超える積雪も珍しくありません。銀山温泉街は、大正ロマンあふれる優雅なたたずまいとして今も受け継がれ、国内外から多くの観光客が訪れます。

(5) 学校の特徴

開校135周年を迎えます。児童数減少に伴いPTA数も減少しましたが、地域の方々には教育に対し高い関心をもっています。各教科・総合的な学習の時間を通して、上の畑焼陶芸教室や茶道教室などの伝統文化にふれたり、里芋や花の栽培、全校芋煮会そしてブナの生長観察などの自然体験を年間通して行ったりしています。また、全校でアルペンスキーに取り組み、オリンピック出場を果たした先輩を目標に各種大会で上位入賞するなど誇れる結果を多くの児童が残しています。



2 尾花沢市立上柳小学校の研究

(1) 研究主題

「とも学び」

表現が響き合う複式学習
~とも(友・共)に学ぶ間接学習づくり~

- (2) 視点1 本気で取り組む「ひとり学び」
視点2 認め高め合う「とも学び」

(3) 私が注目した研究のポイント

- ① 一般的に子どものみで学習活動が行われる時間を間接指導と呼びますが、上柳小学校では、子どもの主体的な学びづくりという観点からこの学習活動の時間を「間接学習」と呼んでいます。
- ② 自力解決と整理・活用、習熟・発展の段階を「ひとり学び」、表現・交流の段階を「とも学び」と称し授業づくりを行っています。「ひとり学び」で、子ども一人一人が課題とじっくりと向き合えるような手だてを講じ、「とも学び」で互いの表現を交流し合い考えを深化させられることを意図しています。
- ③ 「両間接学習」とは、両学年共に間接にして、両学年を見る時間です。間接時の学び方が定着し、子どもたちだけで学習を進められるようになってはじめてとれる時間です。教師は両学年の間、または両学年が見える位置に立っています。

【集団の見取り】○アドバイザーとして軌道修正する。

○情報提供者として話し合いを活性化させる。

【個の見取り】○つぶやきを広い直接指導に生かす。

○迷っている児童に援助の手をさしのべる。

○考えや行動を認め学習意欲を引き出す。



④ 間接学習でめざす子どもの姿（5・6年）

「ひとり学び」	「とも学び」		
	聞き手	話し手	話し合い
<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項とのつながりを意識して課題を把握し、真剣に取り組んでいる。 ・分からないときや困ったときは、仲間に聞きながら集中して取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の考えと異同が分かり、自分の考えと比べて共感的に聞いている。 	<ul style="list-style-type: none"> （国語）本文の叙述に即し、根拠や理由を明らかにして自分の思いか考えを伝えている。 （算数）図、式などをもとに多面的に考え、根拠や理由を明らかにして自分の考えを伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のための手段や方法を考え、話し合いを通してよりよい考えを見出すことができている。 ・話し合いのテーマを設定し、テーマに沿って、自分たちで話し合うことができている。 ・仲間と意見を交流させることで、自分の考えを深化させることができている。

4 全体指導から

(1) 複式のよさを見つけよう

両間接学習（担任が左窓側にいます）

① 少人数

- ・一人一人をとらえやすい（個に応じた指導）
- ・一人の存在が大きい

② 異年齢集団

- ・教室に社会がある（尊敬と思いやり）

③ 指導面

- ・子ども → 自主学習力が付く = 間接指導
- ・教師 → 力量が付く ← 教材研究をしっかりとしないと授業が成り立たない



板書にも「ひとり学び」「とも学び」



(2) 教材研究をしっかりとしよう（省力化も考えて）

① 教材の精選

- ・大切にしたい単元はどこか → そこを重点的にやる

② 本単元の山、本時の山はどこか → ずらしや直接か間接かを考える

(3) 型を大切に

- ◎ 複式の大前提 → 間接学習時は先生のところに行かない

① 本時の流れを知らせる（スケジュールボード）

- ◎ 学習訓練 ・話し合いのさせ方 ・空白の時間の解消 ・教科なりの学習法

(4) 見取りを大切に

- ◎ 間接だから先生は見えてもらえない。なのに、ほめてくれた。見ててくれた。

① 書き記せる力（思考の跡を残す）書いたものは消さない

② 両間接をなるべく多くとって、両学年に目を配る

◇ 校長は経営学のみならず指導学も磨き続けなければならない。今年度へき地複式校に着任し、複式教育への理解を深めなければならない。そんな思いの中、北海道小学校長会から道外研修の機会をいただいたことから、東北地区へき地教育研究大会に参加いたしました。上柳スタイルを追求し、子ども同士が良質な関わり合いを通して生き生きと学習する姿から、「へき地にこれからの教育の展望あり」を実感しました。関係各位に心より感謝申し上げ報告といたします。